

利活用に向けて



今回把握された環境資源について次の点に配慮しながら適切な保全と利活用を進めていきます。

1 正確な情報に基づく現況把握

環境資源、とりわけ自然環境資源を管理する上で、資源の現状を正確に把握することは最も基本であり重要なことです。そのためには、定期的に現地調査を行い、動植物の分布や生息・生育状況の把握が必要です。生物群によっては高度な専門的知識を要する場合がありますため、研究者をはじめとする組織的な調査活動が必要となってきます。そのため、専門家の指導のもと、調査員養成を兼ねた観察会などのイベントを実施し、その参加者を組織化し、研究者や専門家、自然愛好家との連携を深め、協働することが望まれます。また、長久手町内には沢山の魅力的な自然観察の場所が残っていることを広くアピールし、町域を観察スポットとして定着させることも重要です。

2 里山管理などへの適切な人為介入

竹林化の進行など、本町において里山の劣化が随所に現われてきています。里山は薪木や炭として樹林を利用した結果生まれた二次林が主体です。このような里山は、利用することにより維持されてきたため、薪の利用が無くなってからは下草や低木が密生し、かつてみられた多様な生物が生息していた環境は失われつつあります。長久手町の丘陵地が里山として利用されていた頃の環境に適した生き物のうち、日当たりの良い湿地に生える植物群や明るい二次林を生息場所とするギフチョウなどは現在希少種となっており、これらの多くは里山の荒廃とともに絶滅すると予想されます。このような里山の管理放棄による環境資源の喪失を防ぐため、里山の保全について、専門家の指導の下に適切な人為を加えることにより、明るい二次林の姿を取り戻していく必要があります。

3 脆弱な自然環境の適切な管理

希少種が生息・生育する場所は、観察会など野外学習のためには大切な場所ですが、一方で過度な観察者の入り込みは希少種や希少種を育む環境を損ねてしまうことがあります。そのため、利活用には、専門家の意見を参考に、ある程度制限を設けるとともに、保全区域として位置づけ、野外学習やレクリエーションなど利用に重点を置いた位置づけと重複させないことも大切です。

また、希少種やそれを育む環境を直接改変する開発や、間接的に影響を与える開発、例えば、湿地を涵養する地下水の供給源である後背地の開発などについても、影響を最小限に抑制する配慮が必要です。

さらに、希少種は町民全員の大切な財産であるため、その盗掘や密漁は公共資産を損ねる行為であることを広く啓発していく必要があります。周辺住民やボランティア活動家による監視体制を整え、抑止的な環境を作ることも効果的です。

4 外来種・移入種の進入防止や駆除

在来の希少種が近年、外来種の繁殖圧に押され、衰微する事例が多くみられています。直接捕食される場合、交雑種が生まれ在来の遺伝的系統が保てなくなり消滅する場合など多くの深刻な問題が発生しています。外来種の多くが在来の希少種の生活を脅かす存在であるため、専門家の指導を仰いだ上で、外来種の駆除に努めることが重要です。

また、愛好家のなかには、自身の思い入れの強い種を増やしたいという理由から、移入種（国内外来種）を持ち込む例があります。このような、一見、環境に優しいと受け取られがちな移入種の持ち込みについても、競合により在来種を衰退や絶滅に追いやったり、交雑種をつくり遺伝子の攪乱を生じさせたりと、生態系を乱す大きな要因の一つであるため、正しい自然との付き合い方について啓発・普及に努めていく必要があります。

5 水質・大気質の保全

本町には、東部丘陵や香流川を中心に多くの優れた環境資源が残されていますが、香流川の上流域や下流域およびその一部の支流などについては、現況においても水質が良好とはいえない状況です。水質や大気質の良否は環境資源の質を左右する重要な環境要素であるため、水質や大気質の向上を図ることは資源管理及び有効利用を図るうえで重要な観点といえます。

お問い合わせ先

長久手町 生活環境部 環境課
TEL 0561-63-1111 (代表)

長久手町 環境資源目録

概要版

長久手町では、平成11年度に町内の動植物、自然、景観、文化財等の分布を「環境資源目録平成12年3月」にまとめています。その目録作成から10年が経過し、町の環境資源の現状についても変化が予想されることから、現状に即した環境資源情報の更新を図るとともに、生物多様性保全の観点から環境資源目録の見直しを目的として、町に存在する環境資源の分布とその適正な利活用に資するための配慮事項についてまとめました。

平成22年3月

環境資源とは

長久手町では、環境資源を「学術的価値の高い環境資源」、「日常生活における環境要素として価値の高い環境資源」に分けて整理しました。

学術的価値の高い環境資源

特徴的な地形・地質
希少な植物、動物
多様性を有する生態系

日常生活における環境要素として価値の高い環境資源

良好な景観
親しみ学ぶための環境



シラタマホシクサ



ベニイトトンボ



サギソウ



二ノ池湿地群



杵ヶ池



三ヶ峯丘陵

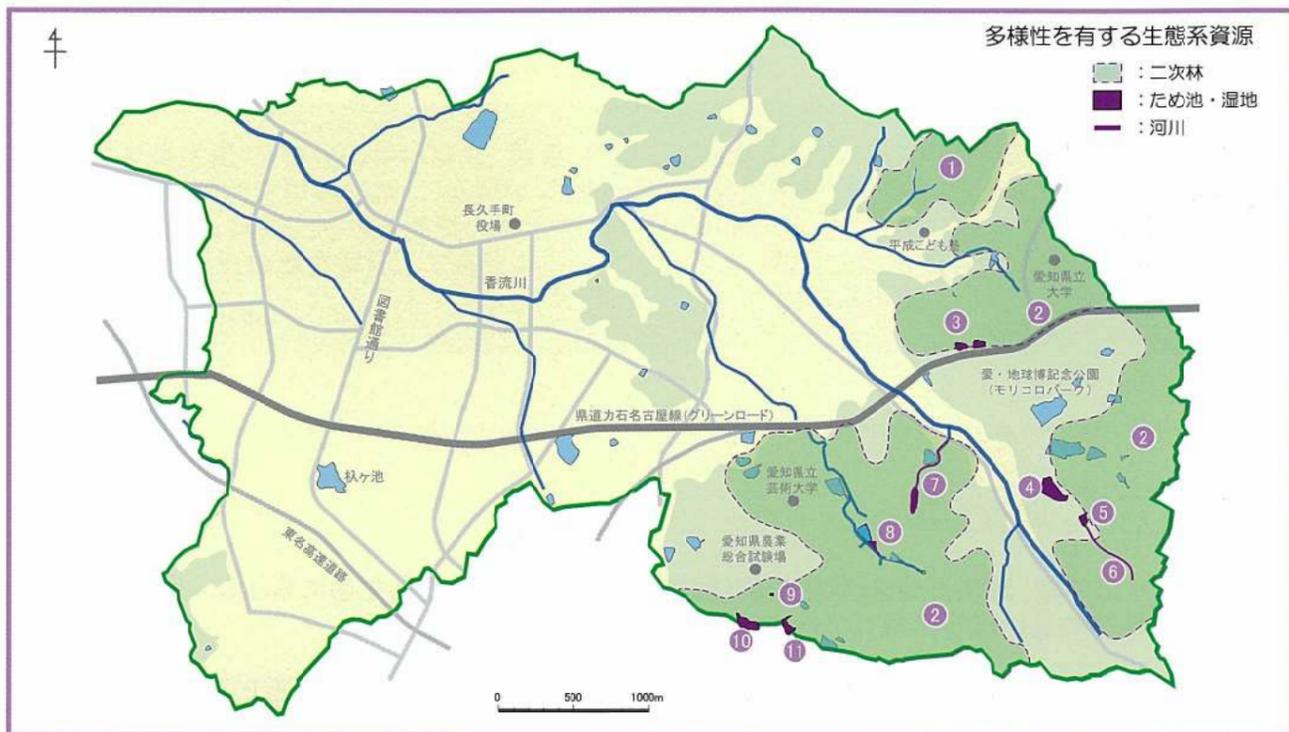


香流川と田園と丘陵

※ 希少な動植物の定義
・レッドデータブックあいち植物編・動物編2009の掲載種
・日本の絶滅のおそれのある野生動物の種のリスト（環境省、平成18年、19年公表）の対象種

学術的価値の高い環境資源

長久手町における多様性を有する生態系は、町東部に集中しています。大草丘陵と三ヶ峯丘陵、そしてそれらの山裾や谷に分布する湿地とため池、これらが希少な動植物の棲み処となって、本町の生物の多様性を支えています。



長久手町に生息している可能性のある希少動植物

長久手町では町全域を対象とした動植物調査は近年実施されていないため、既存資料や専門家への聞き取り調査により把握した種を挙げました。

明るい二次林

- (植物) フモトミズナラ
- (動物) ギフチョウ



湿地を付帯する環境 (ため池、谷津田、川)

- (植物) ケブカツルカソウ, オオアブノメ, ミズギク, アギナシ, シラタマホシクサ, ヒナザサ, サギソウ
- (動物) カスミサンショウウオ, モートンイトンボ, ヒメタイコウチ, ウラギンスジヒョウモン



ため池・川

- (植物) タチモ, スフタ, トチカガミ, ミズオオバコ
- (動物) カワバタモロコ, ウシモツゴ, ホトケドジョウ, メダカ, ペニイトンボ, キイロサナエ, メガネサナエ
- フタスジサナエ, オグマサナエ, ネアカヨシヤンマ, アオヤンマ, トラフトンボ, ヒトスジキソトビケラ



多様性を有する生態系

池、沢、湿地、樹林など、異なる環境がセットになっており、多くの希少種の棲み処となっている場所を挙げました。

- 1 大草丘陵
- 2 三ヶ峯丘陵



- 3 鯉ヶ廻間上池・下池
- 8 ニノ池湿地群

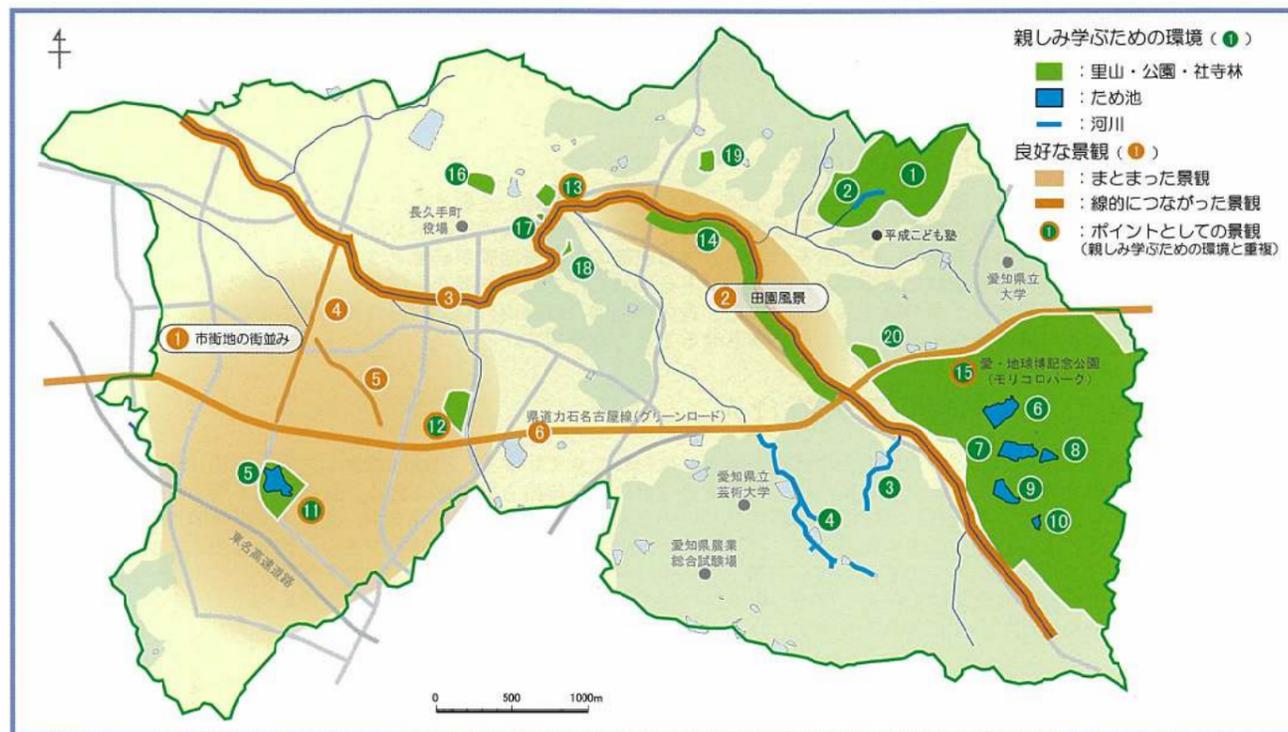


- 6 愛・地球博記念公園内細流
- 10 農総試一号池
- 11 アヤマ池
- 9 無名池 (農総試本館下池)



日常生活における環境要素として価値の高い環境資源

長久手町には、ため池や二次林、自然を活かした公共施設など、身近に楽しめる環境資源が多く分布しています。市街地には杵ヶ池公園や古戦場公園などがオアシス的に分布し、散歩や昆虫採集、野鳥観察に利用されています。町東部には、豊かな自然環境を活かし、希少種の観察ができる公園や、自然体験施設、自然性の高い川やため池など、子どもから大人までがそれぞれの興味に応じて利用できる様々な環境資源が分布しています。



親しみ学ぶための環境

環境資源自体の自然が豊かで、かつ、利用しやすいものを「親しみ学ぶための環境」として挙げました。

里山

- 1 東山川上流の谷戸の水田と周辺二次林



平成こども塾
小・中学生を対象とした農作業や環境教育の活動拠点。

河川

- 2 東山川上流
- 3 一ノ井川
- 4 堀越川上流



ため池

- 5 杵ヶ池
- 6 こいの池
- 7 かえで池
- 8 めだか池
- 9 かきつばた池
- 10 かめの池



公園

- 11 杵ヶ池公園
- 12 古戦場公園
- 13 色金山歴史公園
- 14 香流川緑地
- 15 愛・地球博記念公園



社寺林

- 16 石作神社
- 17 安昌寺
- 18 御嶽神社
- 19 熊野社
- 20 神明社



良好な景観

まとまりのある景観

- 1 市街地の街並み
- 2 東部丘陵(三ヶ峯、大草)と香流川沿いの水田地帯により構成される田園風景



線的につながった景観

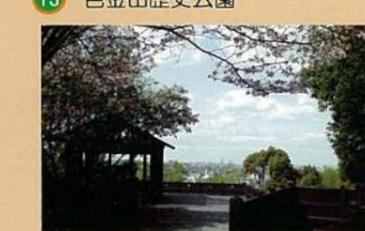
- 3 香流川
- 4 図書館通り
- 5 せせらぎの径



- 6 県道力石名古屋線 (グリーンロード)

ポイントとしての景観

- 11 杵ヶ池公園
- 12 古戦場公園
- 13 色金山歴史公園



- 15 愛・地球博記念公園